

2020/06/5

尹 浩信先生追悼文

2020年3月13日、尹浩信理事長が急逝されました。謹んで哀悼の意を表します。

尹先生は2005年に熊本大学に教授として赴任されました。私は15年に渡って側で勉強させて頂き、多くのことを教わりました。「医局員は家族だ」というのが口癖で、医局員はみな父のように兄のように慕っておりました。大変頭の回転の早い方で、何か問題が起きて相談に行くたびに「福島くん、それはこうだよ。」と結論を出されました。凡人の私は、まだ議論の余地があるはずなどと食い下がるのですが、結果的に尹先生の言われたことがベストな選択肢であったことが後で分かることが多々ありました。研究カンファレンスで、予想した結果が得られませんでしたと報告すると、「それでいいんだよ。実験の結果が真実だよ。」とよく言っておられました。



尹先生は2006年に日本皮膚悪性腫瘍学会の評議員、2011年には理事に就任、2012年に総務委員となり、会則委員会委員長に就任されました。任意団体であった当学会は2015年に社団法人に移行していますが、法人化に伴い定款を定め、会則を大幅に変更する必要がありました。事務局が膨大な事務手続きを行う中、尹先生は会則委員会委員長として、広汎な会則の策定、改訂などに尽力されました。2017年に当学会理事長に就任。これに伴い事務局も埼玉医科大学から熊本大学に移ることになり、私が事務局長を任されました。尹先生がすぐに着手したことは、司法書士への登記手続委託費用など事務局経費のコストカットでした。また、学会ホームページのバナー広告契約数を増やす等、学会の収支を改善させるために活動しました。一方では、旅費規程の策定など学会員の活動に必要な経費を出す規約の整備を行いました。2018年には、天然型IFN-β製剤の供給が停止される可能性について当学会に連絡がありました。その際は、患者さんに使用できなくなると困るという学会員の声をいち早く届けるべく、天然型IFN-β製剤の継続供給に関する要望書を厚生労働省医政局に提出しました。常に臨床現場の声に耳を傾け、なすべきことを考え、やると決めたらやると強いリーダーシップを持っておられた尹先生でした。また、優秀な若手の人材発掘にも熱心に取り組んでいました。今後、当学会の理事、評議員の数が定年に伴いかなり減少することを気かけ、学会発表や論文に広く目を通し、優秀な先生を評議員へ推薦しておられました。

尹先生は、まだまだもっとたくさんのお仕事を成し遂げたかったと思います。志半ばで急逝されたことは、本当に残念で仕方ありません。ご冥福をお祈り申し上げます。

【福島 聡（熊本大学大学院生命科学研究部皮膚病態治療再建学講座准教授）】

学会の現況

2019年度会員状況

会員数

| | |
|---------|---|
| 1) 一般会員 | 1,381名 |
| 2) 賛助会員 | 4社:東レ(株) マルホ(株) (株)ミノファージェン製薬 ノバルティス ファーマ(株) |
| 3) 名誉会員 | 25名 |
| 4) 功労会員 | 45名 |
| 合計 | 1,455名 |

(2020年4月30日現在)

事務局より

コロナウイルス流行の影響により、2020年7月に開催される予定だった第36回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会が2021年1月に延期されました。例年学術大会プログラムと同梱されるJSCSレターも、今年は単独で学会員の皆様へお届けすることとなりました。学術大会の延期に伴い、一般社団法人である日本皮膚悪性腫瘍学会の理事会・評議員総会も同様に延期されます。尹浩信理事長の急逝により、現在は戸倉新樹副理事長が学会運営を率いております。新理事長が1月の評議員総会で決定するまでは、熊本大学大学院生命科学研究部 皮膚病態治療再建学講座 担当:福島聡/船津科香で事務局業務を引き続き行わせていただきます。当学会に関するお問い合わせがございましたら、これまで通り、こちらまでお問い合わせくださいませ。

skincancer@kumamoto-u.ac.jp

(文責)日本皮膚悪性腫瘍学会事務局 福島 聡

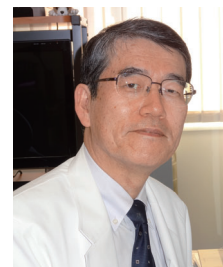
副理事長挨拶 【戸倉新樹(浜松医科大学細胞分子解剖学講座特任教授)】



尹浩信理事長の急逝に伴い、定款により副理事長の私が理事長代行を務めさせて頂いております。新理事長を承認するために文書やメールを用いる場合、すべての評議員の賛同を得なければならぬため、事実上次の総会まで新理事長を承認することが困難です。従ってそれまで理事長を代行させて頂きます。

私自身は4月より基礎の講座に移動し、皮膚科学の研究を続けております。新型コロナウイルスの影響は、皮膚科さらには皮膚腫瘍の診療にも及び、一部の診療が様変わりしてしまいました。外来での感染対策のみならず、手術や薬物治療を受ける患者への対応には皆さん苦慮されていると思います。緊急度によって手術の順番を決める必要性が生じ、また免疫チェックポイント阻害薬など投与中の患者さんへの感染の配慮にも一層気をを使うようになりました。さらに3月より学会や研究会が軒並みキャンセルされ、延期される事態が続く、その後の代替日の決定にも困難さを感じます。7月初旬に予定されていた本学会の総会、学術大会も、山本明史会長のご英断で令和3年の1月8-9日に延期しパシフィコ横浜で開催することになりました。山本会長には大会終了まで気を揉むことになってしまいますが、よろしくお願い致します。また会員を代表して支援の意を表したいと思います。また、令和3年度の学術大会は故尹先生が会長で担当されることになっておりましたが、繰り上がって奥山隆平教授にお願いし、ご内諾いただいております。激動の一年になりますが、会員の皆様のご協力をお願い致します。

第36回学術大会の御案内 【山本明史(埼玉医科大学国際医療センター皮膚腫瘍科・皮膚科)】



2020年7月に東京・浅草にて開催を予定しておりました第36回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大の影響により予定通り開催することは困難であるとの判断に至り、2021年1月8日(金)1月9日(土)に延期させて頂いたことになりました。開催場所もパシフィコ横浜アネックスホールに変更となります。

浅草で開催できなかったことは、残念ではありますが、安全でできるかぎり多くの参加者のもとで、開催したいと考え、延期という判断になりました。新型コロナウイルス感染症との闘いはまだまだ続きそうで、1月の開催も困難と判断される事態となりました折は、できる限り早く判断し、皆様にご連絡させていただきます。

今回の学術大会のテーマは、「皮膚がん診療の新时代を拓く」と題して、最近の進歩を最大限に踏まえ、新しい時代を拓く絶好の機会にしていたきたいと大いに期待しております。

皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、1月の学会の開催に向けて、最善の準備を行うよう努力してまいりますので、ご理解、ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

それでは、仕切り直して来年1月に横浜に多数ご参集下さり、活発なディスカッションをよろしくお願い申し上げます。

第37回学術大会の御案内 【奥山隆平(信州大学皮膚科)】



この度、令和3年(2021年)7月9日(金)10日(土)に、ホテルブエナビスタ(長野県松本市)において、第37回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会を開催させて頂くこととなりました。テーマは、「One Teamで拓く皮膚癌診療の新世界」としました。

現在、多くの方々の御尽力で分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬等々の新規治療薬が使えるようになり、皮膚癌の診療の分野で長足の進歩が遂げられています。一方で、従来から治療の根幹となってきた手術療法等の重要性が低くなった訳では決してありません。また、新規の治療法でも解決できない場合も多く、さらなる治療法の開発も待たれています。皮膚癌の診療を充実させ、患者さんの元にその成果を還元するためには、皆が今まで以上に力を合わせ「All Japan」で診療に当たることが必要不可欠と感じております。

この学術大会を通して、学会員の方々の日々の診療の成果を広く発信いただくとともに、活発に意見交換いただくことで、皮膚癌の診療の新世界を拓く機会になればと切に願っております。教室員一同、皆様のお越しを心よりお待ちしております。